

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 54 号

発行日
2025.06. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「岳陽チャンネル」ー思わぬ形でスタート!!

既に、私(達)のHPで知ってもらえていると思うが、その新たなページに、生成AI「チャットボット」(NotebookLM)の成果物(要約)を活用した、「岳陽チャンネル」というコーナー(ただし「試運転中」!)を立ち上げています。これについては、先の52号で触れてはいるが、こんな形で、その恩恵が、私(達)のような高齢者にも回ってくるなんて、夢にも思っていなかったので、改めて喜びも一入である!とは言え、それによって、HPの閲覧数が、飛躍的に伸びたわけでもない(多少増えたかな?)、まだまだ自己満足の域内とは言える!!

いずれにしても、今は、こうした関係(環境)の下でのエラー発信しか、ほとんど出来ない私(達)であるので、ちょっとでも双方のやり取りに近づけるようなツールは、本当に貴重なのである!欲を言えば、「ブログ」形式にして、真正銘の双方関係にしたいのは言うまでもないが、そこまでの度胸(カネ?)はないので、今現在の、精一杯の形と言えるわけである!要は、一人でも多くの人に、私(達)の論稿(記事)を読んでもらいたい!そして、直のコミュニケーションを図りたい!そういうことであるが、「音声概要」が、それを促進してくれると思っているということである!なお、「チャンネル」と名付けたのは、一応「ラジオ」のように、聞きたい人が、いつでも、どこでも、私(達)の分身?である「チャットボット」の声を聴けるということからである!ただ、その分身は、あくまで機械的な分身である!そこが、悔しいと言え、悔しい(特に、「総集版」のそれが!分身には申し訳ないが)笑!!だが、必要な相棒である!

○「多様性」と「画一性」の相剋の向いつにあるもの?

ところで、これまで、私が、一貫して主張してきた、物事(制度)の「多様性」と「画一性」の相剋の問題を、ある意味では超克するのではないかと思われる考え(方)念)に出くわした!それが、「多元性」(Pluralism)である(資本主義と民主主義の行き詰まりを超える多元的未来への希望)。オードリー・タンとE・グレン・ワイルが提唱する対立を創造に変えるテクノロジー/集英社オンライン・6月7日配信)！要は、「AIに代表されるデジタル技術が、分断と対立を量産し、巨大プラットフォームが権威となる現在。だがテクノロジーは使い次第で対立を創造に変える。テクノロジーは、多様性のある社会を取り戻す新たなインフラになる」ということである!

「…デジタル民主主義。問題なのは、私たちが持っている資本主義の理論が、現実には資本主義に帰せられている」ということ。真つ向から矛盾しているということ。したがって、『資本主義は経済的に合理的である』という考えは、私たちが現実には思い描いているような資本主義が存在しない世界でしか意味をなさない。これは、私たちが解決しなければならぬ根本的なパラドックス。このパラドックスを解決するためには、今私たちが『資本主義』と呼んでいる制度が、実際には、収穫増やイノベーションといった現代の核心的な経済課題をうまく扱える制度からは、ほど遠いもの。それらは、単なる歴史的なレガシーに過ぎない。」ということである!

繰り返しになるが、「単なる多様性」(バラバラ)では、いけないということである!まったくの同感である!

○二人のママ友!何という発想、行動力!

そんな中、極めて面白い情報を得た!直接は、あるテレビ番組であるが(テレビ朝日「激レアさんを連れてきた」)、予想だに出来ない「オリジナルカードゲーム」のことである!すなわち、考案者が、二人のママ友(一人は、元PTA会長)であるということであるが、上記の「プルラリテイ」ではないが、まったく斬新な取り組みなのである!改めて、ネットで調べてみると、「おじさんトレカ」謎の大流行。「おじさん沼」にどハマり女子も町の実在人物がカードに。地域活動参加者は倍増。福岡・香春町(香春)で、子どもたちが熱中するカードゲームが話題になっている。一般的なトレーディングカードとは異なり、カードに描かれているのは実在の地域の「おじさん」たちだ。人気が高まり、中にはおじさんのサインをもらった子どもまでいる。」とあった!

考案者(二人のママ友)によると、「子どもたちと地域のおじさんたちの関係を作りたい」という。疑問となるのが、このカードの人たちがいったい何者かという点。実は、すべて香春町に実在する「おじさん」だ。約40種類あるという、おじさんトレカの誕生のきっかけは何だったのか。注目されるのは、『子どもたちの関係が地域の中で希薄だった。こんなに素晴らしい人たちがいるのに、誰も知らないのがもったいないと思って』と、子どもとおじさんたちの「つながり」を作りたいと語る。」と!

そして、「カードの爆発的な人気で、おじさんは子どもたちにとって「ヒーロー的存在」になった。「おじさんに会える」という理由で、地域活動に参加する子どもも倍増。正式名称を『サイキョウ男(さいごめん)カードゲーム』と言い、『サイキョウ』は、その香春町が古代の採銅所として有名である点(由来)ともあった。

このように、一般的なトレーディングカードとは異なり、地域のおじさんたちがヒーローとして描かれ、子どもたちの間で絶大な人気を博しているわけであるが、その誕生の経緯は、過疎化に悩む地域(否、それ以外の多くの地域も!)にとっては、計り知れない意義と可能性を示唆するものでもある!こんなことが、実際に起こっているのである!驚愕なのは、その動きを創り出したのが、他ならぬ「二人のママ友」だということである!(井上)

○エンゲージメント？アンガージュマンの新相？！

過日、「エンゲージメント engagement」という言葉が、望ましい経営のあり方を示すものとして、近年多用されていることを知った！「婚約、誓約、約束、契約」という意味から派生して、「個人と組織の成長の方向性が連動して、互いに貢献し合える関係」ということになったらしい！それと似た言葉に、「ロイヤルティ loyalty」とか、「従業員満足度」とかがあるが、その違いは、個人と組織の結びつきの方向性ということであるらしい（すなわち、「ロイヤルティは、従業員が企業や組織に対して忠誠心を持つて行動するという上下の関係性。従業員満足度は、処遇や環境に対する評価で、企業側の取り組みに応じて満足度が変わる」）。

それに対して、件の語は、「企業と従業員が双方向の関与によって結びつきを強めていく点が大きく異なる。終身雇用や年功序列といった従来の人事制度から成果主義型の報酬制度へと移行する企業が増え、労働者側によりよい待遇や環境を求める動きが活発化。人材の流動化、さらには副業解禁や情報技術の発展によるリモートワークの進歩など、働き方が多様化。特にキャリアアップ志向が強い優秀人材や、理想の働き方や生き方を求める人材は、自身にとって最適な職場を求めて転職…その結果、多くの企業が将来を担う経営層候補の人材流出に直面。若年層の早期離職率が上昇するなど、人材不足も深刻化…人材の確保と育成を経営の最重要課題として挙げる企業が増え…組織が個人の成長を後押しし、長期的な業績向上を目指す人事施策の重要性が認識されるようになった。」とある。

だが、待てよ？その「エンゲージメント」とは、フランス語では「アンガージュマン」？それは、実存主義の用語で、「状況に自ら関わることにより、歴史を意味づける自由な主体として生きること。サルトル・カミュなどでは、さらに政治的・社会的参加、態度決定の意味をもつ」。要は、同じ？組織と従業員、社会と個人、視点は違うが、個人と全体という点では、人間社会の本質的な問題とも言える？

○やっつゝクマゼミの音が聞えてきた！

沖縄では、通常、6月23日（慰霊の日）頃、梅雨明けとなりと思っていたが、今年は、何とも早いそれとなつていた！だが、もう一つ、それと連動したクマゼミの鳴き声があつたが、今年は、本日（24日）、それが、遠くの木から聞こえてきた！要するに、クマゼミは、梅雨の動向とは無関係に、この頃から鳴き出すということか？それとも、今季は、梅雨明けがイレギュラーで、セミ達が、それに即座に呼応できなかったということか？

もちろん、そのメカニズムについては、私には分かり様もないのであるが、いわゆる「自然」の変容と、そこに生きる「生物」の関係は、どのようになっているのが、少し気になつたということである！おそらく、生物の方は、その自然の成り行き（法則？）を体感し、それに応じて自ら生命活動を創り上げていくものと思われるが、そこに、今までは違ふ成り行き（法則？）が出てくれば、どのような対応していくのであろうか？はつきりしていることは、それに対応できないということか？！

＜短歌に託して…いつもなら、今頃が梅雨明け？＞

・「岳陽チャネル」！ 思いもしない AIの力で実現！ これも時代？

・多様性と画一性 それを超越する多元性？

では、「様」と「元」の違いは？

・香春^{かむち}とも言えは 古代史と

思つていたのに 何故今は おじさんトレカ？

・エンゲージメント！ それは懐かしい

アンガージュマン？ 根は同じとも？

・変化への対応？ そこに法則性あらば

予めの準備は そこそこ出来るか？

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕54＞

〇二〇〇からは、九州での隠れた事績を追つてその〇一 さて、先の52、53では、真に不思議な情報（知見？）を挙げたが、もう一つ、ここで思い出されるのが、かの「景行天皇の熊襲征討」の物語である！彼は、婆娑（在波・現在の山口県防府市）から九州に渡り、8年もの間（これは、彼が、大和の王ではなかつたことを示す）そんなに長い間、遠く都を離れているというとはあり得ない！九州中南部を巡幸したとされるが、それが、先に述べた「神人井耳命」（多氏の祖）の子孫達（りわけ「健甕龍命」）の事績と重なるのである！ただし、この景行の九州巡幸譚は、「古事記」には、直接記されていないようである！ただ、南九州の日向の「美波迦斯毘売（みなびかひびめ）」を娶つて「豊国別（よとくにわかれ）王」を生んだこと、その子孫が、「日向国造」↓「諸賀君（もろがみきみ）」であることは記しているようである！

ということで、景行の子孫の一人が、宮崎県の西都原土墳群の主？「諸賀君牛諸井（もろがみきみ）」とされるようであるが、その西都原（名称も、何となくそれを匂わせている）は、南部九州での前方後土墳集中部で、彼の娘「髪長（かみなが）姫」は、仁徳天皇の妃ともなっている！したがって、これらの関係（伝承）も、神武東征の話と結びつければ、面白い事実なのである！余談であるが、おそらく彼らに關係すると思われる「女狭穗（めうさほ）塚・男狭穗（おさほ）塚」の被葬者は、当地では、かの「木花佐久弥姫（きはな さくやひめ）」と瓊瓊杵尊（にぎはひめ）だとされてもいるようである？

以上は、「こんなことが言える？！新『古代史の旅』（総集版）」（2019年12月）所収の「3 神武とその子孫（神人井耳命と神沼河耳命と総瓊）その關係（伝承）を推理する？」を、ここでの文脈に沿つて示したものであるが、「多氏」については、その他の過去の論稿でも扱っていると思つているが、今回確認できたのはこれだけである。

とにかく、この「景行天皇」も、途轍もなく大きい謎を有している天皇なのである！尤も、実在していたのか？あるいは、近畿（天和近江？）の天皇であつたのか？それ自体も、かなり怪しいものであるが、彼（おそらく彼に扮せられていた人物）が、九州に対して（あるいは九州において）、大きな影響を及ぼしたことは（ヤマトタケル）の熊襲征討譚も含めて、おそらく間違いないであろう！（つづく）

（編集後記）怪しげな梅雨明けであつたが、とにかく年の半分が過ぎた！だが、暑さはこれからである！ （井上ノ堂本）